



都市再生整備計画事業と 土地区画整理事業との一体的なまちづくり

玉村町 都市建設課

玉村町文化センター周辺地区は、玉村町の中央部に位置し、東毛広域幹線道路の整備などにより、交通利便性に恵まれた地区になっています。

そんな立地条件を生かし、土地区画整理事業により、全236区画の新規住宅地を造成し、定住人口促進を図っています。また、区画整理区域内及び隣接した既存住宅街において、平成27年度から令和元年度にかけて、都市再生整備計画事業を活用し、一体的に良好な住環境を創出するための整備を行いました。主に、区画整理地区内の歩道・歩行者専用道路のインターロッキングブロック舗装や車道部の石畳風舗装、交通広場の整備などを実施しました。インターロッキングブロック舗装は、新規住宅地の分譲と合わせ、景観に配慮し歩きたくなる空間を創出しています。また、文化交流の拠点でもある文化センターへと導く導線の役割も果たしています。石畳風舗装は、既存住宅地内で実施しており、住環境の改善のため側溝の布設替えにより排水機能を改善し、情緒ある高質な空間を形成しています。さらに、路肩をカラー舗装にすることで、区画整理地区内にある文化センターへと導き、新規住宅地内と既存住宅地内の人たちのコミュニティが生まれ、情報の交換など様々な文化交流の場へと続いています。



石畳風舗装

■ 既存住宅地と新規住宅地の融合

新規住宅地に隣接する既存住宅地は、数社により開発が行われ道路と側溝の段差や排水機能が果たされていない箇所が見受けられるため、排水機能の改善と、情緒ある高質な空間を創設するため、石畳風の舗装を施し、外に出たくなるような空間を形成しました。新規住宅地内と既存住宅地内の人たちの交流が行え、様々な情報の交換などの場となることが期待されています。

また、石畳風舗装の路肩部分をカラー着色し、インターロッキングブロック舗装へと繋ぐことで、文化交流の拠点でもある文化センターへと導く導線の役割を果たしています。



インターロッキングブロック舗装

■ 新規住宅地内から公共交通の発着

新規住宅地内から公共交通の乗り入れを行い、住んでいる人の足となるべく、交通広場を整備しました。現在、町内の巡回乗り合いタクシー「たまりん」を廻しており、路線バスの乗り入れについても、調整中ではありますが、実現へ向け取り組んでいます。

公共交通においては、住民の利用だけでなく、文化センター利用者に向けての利用も視野に入れ、更なる文化交流が盛んに図れることが期待されています。



交通広場西